

【第2次プランのポイント】

【第3次プランのポイント】

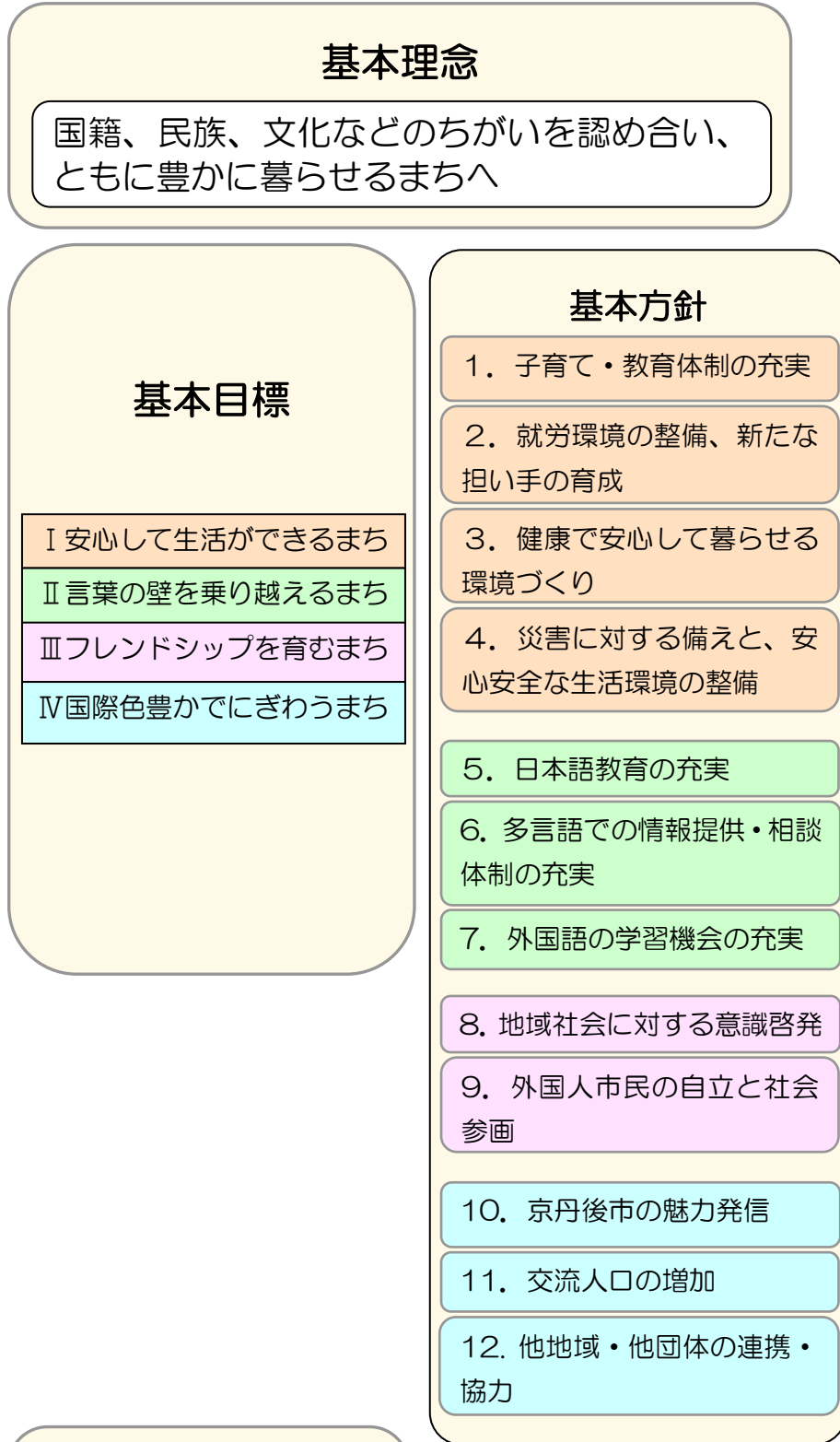
「基本理念」「基本目標」「基本方針」を踏襲
「指標目標」を新設、新規の取組を追加

第2次プラン・基本目標ごとの評価と課題】

評価・分析	課題・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 外国のルーツやアイデンティティーを尊重し広く活躍できる人材を育成する必要がある。 ● 多言語対応についての問い合わせが少なく、その存在が外国人市民に知られていない。 ● 短期滞在の外国人市民が増加しており、災害に関する知識や情報を持っていない人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多言語化への体制整備と合わせて、積極的な周知を進める必要がある。 ■ 災害時の外国人市民を「要配慮者」ではなく「共助の担い手」として捉える視点が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語教室について企業や外国人市民に十分知られていない。 ● 外国人の多国籍化が進んでおり必要な制度の情報を得られていない人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通訳翻訳人材の育成とともに、翻訳アプリ等の周知・活用を進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本人高齢層は外国人との交流機会が少なく、多文化共生への意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国人との交流が多い若い世代を橋渡し役として育成していく必要がある。〈継続課題〉
<ul style="list-style-type: none"> ● 文化的、宗教的背景を理解し安心して滞在できる取り組みが継続して必要。 ● 9割以上の外国人市民が日本人との交流を望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 京丹後市に訪れる外国人を増やすとともに、日本人市民との交流機会を増やす必要がある。

【計画づくりへの市民参加】

多文化共生推進プラン策定委員会の設置（委員 17名）



計画期間

平成30年度から令和4年度
(5カ年計画)

基本理念 ※継続P37~

国籍、民族、文化などのちがいを認め合い、ともに豊かに暮らせるまちへ

基本目標 ※継続P38~

- I 安心して生活ができるまち
- II 言葉の壁を乗り越えるまち
- III フレンドシップを育むまち
- IV 国際色豊かでにぎわうまち

指標目標 ※新規P40

1. 日本人市民の指標
 - ・日本語以外での意思疎通ができる
現状値 6%→目標値 7%
 - ・多文化共生認知度
現状値 31%→目標値 50%
 - ・外国人との関わりがある
現状値 51%→目標値 60%
2. 外国人市民の指標
 - ・避難所認知度
現状値 50%→目標値 70%
 - ・住みやすさ
現状値 46%→目標値 60%
 - ・日本語での意思疎通ができる
現状値 69%→目標値 75%
 - ・外国人として嫌な経験がない
現状値 46%→目標値 55%

計画期間

令和5年度から令和9年度
(5カ年計画)

第3次プランにおける新規取組等

現状把握のため、市民アンケートに加えて事業所アンケートを初めて実施
P31~

基本方針 11「交流人口の増加」の施策に「移住希望者への情報提供」を新規追加
P39

- 外国人留学生との交流促進
 - 外国人相談窓口の周知
 - 災害対応の宿泊施設との連携
 - 日本語教室の企業への周知
 - 翻訳アプリの利用促進
 - 移住サイトの周知
- を具体的な施策に新規追加
(6施策)
P42~